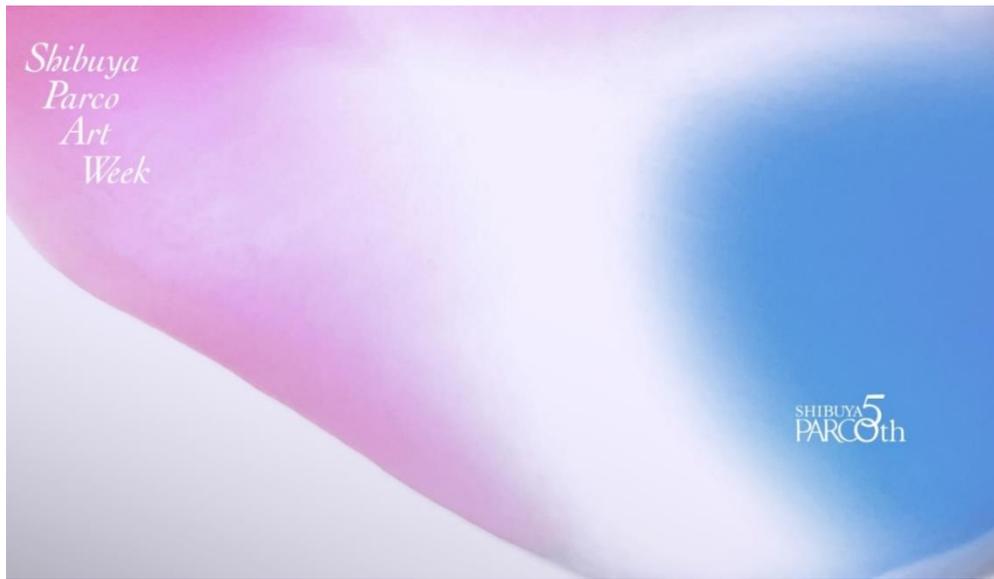


〈渋谷PARCO50周年企画 第4弾〉

世界で活躍する演出家・アーティスト 高山明の新作をはじめとするパフォーミングアーツのほか、約30企画の個性豊かな展示やPOPUPが一同に集う。ARTをより身近に感じられる10日間

「SHIBUYA PARCO ART WEEK 2023」開幕

開催期間：2023年9月15日（金）～24日（日）



渋谷PARCOでは、「SHIBUYA PARCO ART WEEK 2023」を2023年9月15日（金）より今年も開催します。今年のテーマは“MOMENT”。“瞬間”のアートを体験して、今というかけがえのない時間の尊さを身近に感じる10日間がいよいよ始まります。

世界で活躍する日本人作家を招聘し“MOMENT”をテーマに3組によるパフォーミングアーツ・演劇作品を発表します。演劇ユニット・Port B主宰の高山明氏は館内放送を媒介に東南アジアや中東の歌い手と日本の詩人による新作「BGM / わたしの歌」を放送。雨宮庸介氏は外壁に3314年まで続く作品の一部を掲げるほか、楊いくみ氏は渋谷PARCO全館を舞台にMixed media Performanceを演出します。さらに、9月18日（月・祝）には今回の3組の作家が出演する SUPER DOMMUNEでの特別番組を配信します。

さらに、**スペインを拠点に活動するダニエル・ヌニェス氏による日本初個展**や、陶器鉢の作家ブランド「Raw Life Factory」と「TRUNKWARE（植物×陶器鉢）」と名付けた作品の魅力を発信する「KINOCO」による展示の他、**ほぼ日曜日ではファッションブランド「ANREALAGE」による“ほぼ非日常”な世界を感じる体験型展示**をはじめ、約30本もの多種多様なイベントが一挙大集結します。

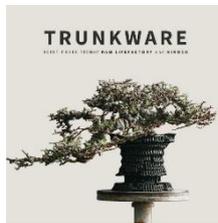
今年、渋谷PARCOは開業50周年を迎え、「SHIBUYA PARCO ART WEEK 2023」は50周年を盛り上げる4つ目の企画でもあります。この秋、渋谷PARCOで最旬のアートとカルチャーに出会ってみてはいかがでしょうか。



高山明 ©Bea Borgers



2G (NANZUKA) ダニエル・ヌニェス「Urban Jungle」
©Daniel Núñez Courtesy of AKIINOUE and NANZUKA



TRUNKWARE -Joint Exhibition of
Raw Life Factory and KINOCO-



ほぼ日曜日・ANREALAGE「6 DOORS」

■タイトル：SHIBUYA PARCO ART WEEK 2023（シブヤパルコ アートウィーク ニセンニジュウサン）

■期間：2023年9月15日（金）～9月24日（日） ■会場：渋谷PARCO館内外

■特設WEB：<https://shibuya.parco.jp/feature/detail/?id=6700>

【同時開催】ポケパル払い・PARCOカード10%ペイバックキャンペーン

PARCO公式スマートフォンアプリ「POCKET PARCO」で渋谷PARCOをよく行く登録し、渋谷PARCO館内にて、期間中ポケパル払いまたはPARCOカードで5,000円お買い上げ毎に500円分の渋谷PARCOお買物券を先着500名様に進呈。最大50,000円分のお買物まで10%ペイバック。

【本件に関するお問合せ】

パルコ広報事務局（株式会社イニシャル内） 担当：友松・日出・岸本・西野
E-mail：parco@vectorinc.co.jp TEL：03-6821-5730 FAX：03-5572-6065
株式会社パルコ 渋谷店営業課 大森 omo-yaka@parco.jp

SHIBUYA PARCO ART WEEK 2023 | TOPICS

■ パフォーミングアーツ：世界で活躍する日本人作家を招聘し“MOMENT”をテーマに3組によるパフォーミングアーツ・演劇作品を発表。

演劇ユニット・Port B主宰の高山明氏は館内放送を媒介に東南アジアや中東の歌手と日本の詩人による新作「BGM / わたしの歌」を放送し、雨宮庸介氏は外壁に3314年まで続く作品の一部を掲げるほか、楊いくみ氏は渋谷PARCO全館を舞台にMixed media Performanceを演出する。



©Bea Borgers

高山明

「BGM / わたしの歌」
放送場所 館内各所の放送にて
毎時15分・45分に放送



雨宮庸介

「1300年持ち歩かれた、なんでもない石」
(抜粋)
展示場所 1F ART WALL



mixed media performance 「p. §.」

演出：楊いくみ
参加クリエイター 石川朝日 / 小松千倫 / 鈴木創大 / 小山田孝司 / YOSHIKO KURATA
会場 10F 及び館内一部フロア
日時 2023年9月18日(月・祝)・19日(火) 20:00-21:00

■ 2G (NANZUKA) | ダニエル・ヌニェスの日本初個展「Urban Jungle」

日常生活が取り巻く多種多様なシンボルを独自のタッチで表現する、唯一無二の世界観に注目



(左) Daniel Núñez Pretty little fears 2023

[Acrylic, wax, graphite, ink, spray and oil stick on canvas H160 x W130 x D4 cm]

(右) Daniel Núñez Pretty little fears 2023

[Acrylic, wax, graphite, ink, spray and oil stick on canvas H160 x W130 x D4 cm]

©Daniel Núñez Courtesy of AKIINOUE and NANZUKA

今回キュレーションを手掛けたのは、

「NANZUKA」出身の「AKIINOUE」だ。本展に登場する作品に表れるのは、ヌニェス自身の生活環境や日常生活のリズム。そこには、元気な少年や異生物、煙をふかした車や流行りのファッションと同時に、わずかな恐怖心、疑いや混乱などのネガティブな要素も含まれ、普段は相入ることのない物事の混在こそが、人間の感情であるというヌニェスの思想が読み取れる。

2F 2G (NANZUKA)

2023年9月11日(月) - 10月8日(日)

入場無料

■ PARCO MUSEUM TOKYO | 陶器と塊根植物の展示

「TRUNKWARE -Joint Exhibition of Raw Life Factory and KINOCO-」

“コーデックス”と呼ばれるレアな塊根植物が人気沸騰するのとシンクロするように、その愛好家たちから絶大な支持を集め、入手は困難を極めている。そんな「Raw Life Factory」と、「TRUNKWARE (植物×陶器鉢)」と名付けた作品の魅力を発信する「KINOCO」が、植木鉢、そして植木鉢へ塊根植物を植え込んだ作品の展示販売

「TRUNKWARE -Joint Exhibition of Raw Life Factory and KINOCO-」を開催。テーマは「植物と鉢の掛け合わせを文化へ」だ。会場ではオリジナルグッズの販売も行われる。

4F PARCO MUSEUM TOKYO

2023年9月15日(金)～24(日)

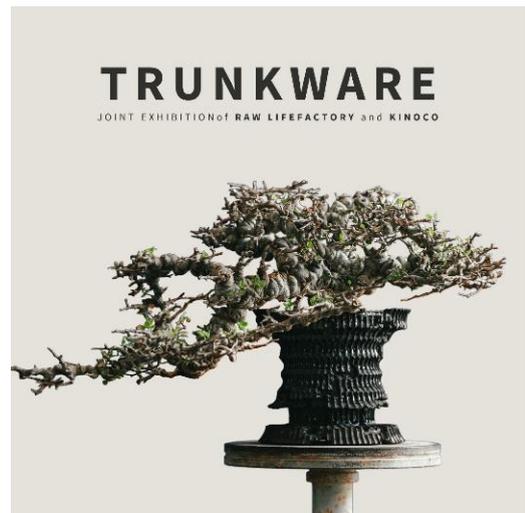
11:00～21:00 ※入場は閉場の30分前まで ※最終日は18:00閉場

入場無料

※9/23(土)・9/24(日)は、入場当選者のみ入場可

EVENT音楽提供：haruka nakamura

映像監修：白石剛浩



SHIBUYA PARCO ART WEEK 2023 | 企画一覧

イベントの詳細は、特設WEB：<https://shibuya.parco.jp/feature/detail/?id=6700>
または、館内のリーフレットでご確認いただけます。

■パフォーミングアーツ

- 高山明
作品名「BGM / わたしの歌」 9月15日（金）～9月24日（日）毎時15分・45分に放送
放送場所 館内各所の放送にて ※4人の詩人による詩は、館内にて配布されるART WEEKタブロイドのQRコードより参照。
- 雨宮庸介
プロジェクト名「1300年持ち歩かれた、なんでもない石」 9月15日（金）～9月24日（日）
展示場所 1F ART WALL ※配布場所：館内入口ほか
- mixed media performance 「p. §.」
演出：楊いくみ 参加クリエイター 石川朝日 / 小松千倫 / 鈴木創大 / 小山田孝司 / YOSHIKO KURATA
9月18日（月・祝）・19日（火）20:00-21:00 フロア 10F 及び館内一部フロア

■ギャラリー企画

- | | | |
|--------------------------|---|--|
| GALLERY X BY PARCO (B1F) | 9月8日（金）～9月18日（月・祝）
9月22日（金）～10月9日（月・祝） | 『空想台湾』
『インディーアニメクロスX! in 渋谷PARCO』 |
| 2G (NANZUKA) (2F) | 9月11日（月）～10月8日（日） | ダニエル・ヌニエスの日本初個展『Urban Jungle』 |
| OIL by 美術手帳 (2F) | 9月15日（金）～10月9日（月・祝） | 吉野もも『余白の深淵』 |
| PARCO MUSEUM TOKYO (4F) | 9月15日（金）～9月24日（日） | TRUNKWARE -Joint Exhibition of Raw Life Factory and KINOCO- |
| 3LFTN apartment (7F) | 9月6日（水）～9月18日（月・祝） | 3LFTN apartment 29th Exhibition
Kohei Arano Solo exhibition |
| ほぼ日曜日 (8F) | 9月9日（土）～10月9日（月） | “ほぼ非日常”な体験型の展覧会『6 DOORS』 |
| WHITE CINE QUINTO (8F) | 9月5日（火）～9月24日（日） | W・アンダーソン監督作『アステロイド・シティ』の衣装と小道具の特別展 |
| GAKU (9F) | 9月23日（土）・9月24日（日） | 東アジアに生きる女性や、性的マイリティの声を次世代に継承する「道をつくる」 |

■ショップ企画

- | | | |
|--------------------------|--|--|
| Discover Japan Lab. (1F) | 9月16日（土）～10月1日（日） | 土本製陶所 個展 |
| Mid-Century MODERN (4F) | 9月15日（金）～10月1日（日） | にいみひろぎの展覧会「ROCKET PUNCH」 |
| P&A Pottery Class (4F) | 9月1日（金）～10月1日（日） | クリエイターたちの陶器展示販売会「CERAMICS MARKET」 |
| KiwandaKiwanda (4F) | 9月15日（金）～9月24日（日） | デザイナー・chiekoデザイン原画展「KiKi's gallery」 |
| Calif (5F) | 9月7日（木）～9月18日（月・祝） | DRAGON76 SOLO EXHIBITION
『NEO - URBAN CHRONICLES』 |
| beautiful people (2F) | 不朽の名作『はらべこあおむし』とコラボレーション。鮮やかな色彩と魅力的なイラストを活かしたアイテム発売 | |
| 金三味 (4F) | 林 靖高がデザイン、箸袋Tシャツにフォーカスしたフェア。 | |
| VCM MARKET BOOTH (4F) | ARTを纏うused & vintage 「sison」 / 表現作家・maki koutarouとコラボ「KAKKO」 | |
| POP MART (5F) | 「AZURA Y2K シリーズ」を日本限定リリース | |

■POP UP

- ・PAMEO POSE (1F) 9月12日（火）～9月19日（火）
アニメ『ジョジョの奇妙な冒険 黄金の風』とコラボレーション。
- ・Little Sunny Bite (1F) 9月15日（金）～9月24日（日）
ヴァンセント・ギャロとのコラボレーション第2弾。
- ・NEONTOYS SOLO EXHIBITION “SLIT ANIMALS” (4F) 9月15日（金）～9月24日（日）
トイブランド「NEONTOYS」の新作個展
- ・ますだみく個展「ドラマチックな恋じゃないけれど」(4F) 9月15日（金）～9月25日（月）
センチメンタルな恋愛をテーマとした絵と言葉をめぐる新作が一堂に
- ・VEQUM (4F) 9月15日（金）～9月26日（火）
ブランド初のPOP UP開催。注目アーティスト・小林由の作品展示

■イベント

- ・Podcast『聞く CINRA』meets PARCO ART WEEK (4F) 公開収録9月15日（金）19:00～／配信予定日9月22日（金）
- ・MOVIE GO ROUND (10F ComMunE) 9月15日（金）11:00-23:00（予定）
- ・PARCOでkokonnと益子もえぎの小さな秋の陶器市 (10F ComMunE) 9月16日（土）・17日（日）11:00-18:00
- ・FORGOOD (10F ComMunE) 9月18日（月・祝）11:00-19:00 入場料：¥1,000（ワンドリンク付き）
- ・PARCO PRESENTS「パンタスティック!!!」JAPAPAPAPAPANTOUR (10F ComMunE) 9月22日（金）～9月24日（日）11:00-21:00

パフォーミングアーツ

■高山明 | 「BGM / わたしの歌」

館内放送を媒介に東南アジアや中東の歌い手と日本の詩人による新作「BGM / わたしの歌」を放送する。

さまざまな理由で母国から移動せざるをえない人たちがいる。彼らが国を去るとき、なにを携えてくるのだろうか。お金？パスポート？家族の写真？手紙？スマホ？大きな荷物を持ってこられるわけではないので、どうしても持っていきたくて、しかも移動の妨げにならないものを厳選するに違いない。

では、形のないものについてはどうだろうか？親から受け継いだ言葉（母語）、お家の料理の味、その料理のつくり方、海や山の匂い、故郷でのお祭りの思い出・・・これらは物でないから、記憶している限りどこにでも持っていくことができる。移民や難民の人たちに接していると、こうしたものをとても大切にしていることが分かる。

そんな無形のものたちのなかに、故郷から携えてきた歌がある。母国のお祖父さんやお祖母さん、お父さんやお母さんから教わった歌だ。学校で習ったり、知らないうちに覚えたりして、自分の体ごと移動してきた歌。今回は、カンボジア、ベトナム、ラオス、クルドから来た4人に、「わたしの歌」を歌ってもらう。

それらの歌（音源）が渋谷PARCOの館内放送で流れる。館内放送はお客さんへのお知らせが入ったり、気の利いたBGM

が流されていたりするので、それに混じったかたちで1時間に1曲、決まった時間に放送されることになる。BGMは「バックグラウンド・ミュージック」だから、通常は背景にあり、存在を強く主張せず、素通りされるミュージックのことを言うが、今回の歌は「わたしの歌」であり、歌い手のバックグラウンド（背景）が刻まれた歌だ。

見知らぬ誰かの、耳慣れない言語で歌われた歌が、その場を訪れた別の誰かによって聞かれる。ちょっとした注意を向けられることで、BGMは背景から前景へと浮かび上がる。遠くからきた歌が身近に感じられたり、その背景にまで想像が及んだり、普段見慣れた景色が少し違って見えたりすることがあるかもしれない。

歌は原語で歌われるため、歌詞の意味が気になるころだろう。専用ウェブサイトにも飛んでもらうと歌詞の内容を日本語で読むことができる。しかし、それは普通の意味での歌詞の翻訳ではない。日本語に熟達した4人の詩人たちが、歌い手とペアになり、歌を聴き、歌の背景や歌詞の内容を教えることで紡ぎだした言葉である。実験的な試みになるので完成形のイメージは分からないが、他人の歌の「翻訳」であり、詩人自身の「詩」でもあるような、新たな言語表現が生まれることを期待している。

高山明



高山明 / 演出家・アーティスト

演劇ユニットPort B（ポルト・ビー）主宰。現実の都市や社会に介入する活動を世界各地で展開している。近年では、美術、観光、文学、建築、教育といった異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げた取り組みも行っている。

©Bea Borgers

作品名 「BGM / わたしの歌」

放送場所 館内各所の放送にて

※4人の詩人による詩は、館内で配布するART WEEKタブロイドのQRコードからご覧いただけます。

日時 会期中毎時15分・45分に放送

歌・歌い手・詩人

「母の日記」（ベトナム）歌：グエン・ティ・ハ 詩：青柳菜摘

「舟をこぐ」（カンボジア）歌：久郷ボンナレット 詩：小磯洋光

「レメー、レメー」（クルド）歌：フェヒメ 詩：田中くるみ

「故郷が恋しい」（ラオス）歌：インタチャック・ヴィライ 詩：小島日和



青柳菜摘 / アーティスト

あらゆるものの成長過程を観察する上で、リサーチやフィールドワークを重ねながら、見ているものがそのまま表れているように経験させる手段と、観客がその不可能性に気づくことを主題として取り組む。近年の活動に個展「亡船記」（十和田市現代美術館、2022）、詩集『そだつのをやめる』（thoasa、2022）第28回中原中也賞受賞。コ本や honkbooks 主宰。



小磯洋光 / 翻訳家・詩人

訳書にアン・カーソン『赤の自伝』（書肆侃侃房）、テジュ・コール『オープン・シティ』（新潮 Crest ブックス）、グレイソン・ペリー『男らしさの終焉』（フィルムアート社）など。『現代詩手帖』やアメリカの『Poetry』などに日本語および英語の詩を発表している。



小島日和 / 詩人

1997年生まれ。早稲田大学文化構想学部卒業。2020年「インカレポエトリ叢書」として、第1詩集『水際』（七月堂）を刊行。同詩集で第26回中原中也賞を受賞。



田中くるみ（Tanaka Kurumi） / アーティスト

岩手県生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。何が起きるかわからない不条理な土地に建築を作るとしたら何をどう作ればよいのかという問いから、土地と人間をよく見る手段として映像制作と詩作を行う。近年の活動に、自主レーベル「HoyaBooks」より、『中華義荘日記』（2022）、『風の従者』（2023）発行。

■雨宮庸介 | 「1300年持ち歩かれた、なんでもない石」

2014年にはじめて3314年までかかるプロジェクトを記した文章の抜粋をARTWALLに掲出し、プロジェクト全文は館内配布のペーパーで読むことができる。



雨宮庸介

1975年茨城県生まれ。山梨/東京在住。Sandberg Institute (アムステルダム) Fine Art Course 修士課程修了。

彫刻、ビデオインスタレーション、パフォーマンスなど多岐にわたる方法で作品を制作。「Wiesbaden Biennale」(ドイツ、ヴィースバーデン市内各所)、「DOMANI・明日展」(国立新美術館)では長期にわたる全会期時間に在廊し、パフォーマンスを行なった。リンゴや石や人間などのありふれたものをモチーフに、認識のアクセラとブレーキを同時に踏み込むかのような独自の話法や超絶技巧を用い、「いつのまにか位相を越境してしまうかのような体験」を提供する。——それらを通じて「現代」や「美術」について再考を促す作品制作をし続けている。

作品名 「1300年持ち歩かれた、なんでもない石」
 展示場所 1F ART WALL
 配布場所 館内入口ほか

■mixed media performance 「p. \$.」

異なる分野のクリエイター集い、渋谷PARCO館内全体を使った実験的パフォーマンスを会期中2回上演する。



本企画には、パフォーマンスディレクションに楊 いくみ、パフォーマーとして石川 朝日、音楽に小松 千倫、映像に鈴木 創大、スタイリストに小山田 孝司が参加します。普段、商業施設として親しまれている場所を舞台に、異なる分野のクリエイターが局地的に1時間に集うことで生まれるシナジーを体験いただけます。彼らは意図的に劇場を使わずに、バックヤードも含め館内のあらゆる場所からパフォーマンス、映像、音楽による振動を響かせ、時間と空間を伸縮する試みを行います。「ART WEEK」のテーマである「MOMENT」に対して、彼らは二度と起こらないはずの一回性の現実を不気味にもループしながら、屋上へと上昇していきます。

タイトル mixed media performance 「p. \$.」
 会場 10F 及び館内一部フロア
 日時 2023年9月18日(月・祝)・19日(火) 20:00-21:00
 パフォーマンスディレクション:楊いくみ
 パフォーマー:石川 朝日 / 音楽:小松千倫 / 映像:鈴木創大 /
 衣装:小山田 孝司 / プロジェクトマネージャー:Yoshiko Kurata



楊 いくみ

1993年、東京都生まれ。2019年に東京藝術大学大学院 修士課程油画専攻修了。都市生活史を起点にパフォーマンス/インスタレーションを制作。パフォーマンスディレクションも行う。山水画の遠近法を参照し、流動的で余白がある空間と共同体を作る。



小松 千倫

1992年高知県生まれ。音楽家、美術家、DJ。2022年京都市立芸術大学大学院博士後期課程メディア・アート専攻修了。これまでに様々なレーベルやパブリッシャーより複数の名義で膨大な数の音源をリリースしている。また情報環境下における情報の流れとそれに隣した身体の状態、その記憶や伝承について光や歌を用いて制作・研究する。



鈴木 創大

1999年、神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院 映像研究科メディア映像専攻在籍。グローバル化やインターネットの発展などで変化した同時代の場所性について『ペラい場所性』という造語をキーワードに映像やインスタレーションを制作している。また、都内を中心にVJ・映像作家としても活動。



石川 朝日

1995年生まれ。俳優。男5人兄弟の4番目。多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科中退後、ジャックルコック国際演劇学校入学。2年間の留学後卒業。帰国。『仮面』を自身の活動のベースとして仮面製作や仮面劇を行う一方で、現代演劇やダンス、パフォーマンス、劇場内、劇場外でのことに携わりつつ、居方がかなり違うなあと体感している現在。



小山田 孝司

1985年生まれ。ドレスメーカー学院 ファッションビジネス学科卒業。在学時よりファッションディレクター山口壮大氏に師事。卒業後、後藤慶光と共に高円寺キタコレビル内に古着屋「はよとちり」をオープンする。2010年より、スタイリストとして活動。国内外のエディトリアル、広告、アーティストのスタイリングなどを手がける。2020年8月よりLESEN inc.に所属。



YOSHIKO KURATA

国内外のファッションデザイナー、アーティストなどを幅広い分野で特集・取材。2019年3月にはアダチプレス出版によるVirgil Abloh書籍『「複雑なタイトルをここに」』の共同翻訳・編集を行う。2022年には、DIESEL ART GALLERYの展示キュレーションを担当。同年「GucciBamboo 1947」にて日本人アーティスト・nico itoをコーディネートする。

GALLERY LINEUPS ①

■OIL by 美術手帖 | トリックな作品で話題を集める、吉野ももの新作個展。渋谷PARCO 2F に新たな異空間が出現する

視覚的なしかけを利用した描写で絵画と空間の関係性を探求し、観る者や周りの環境と干渉し合うような作品をつくり出す、吉野もも。90mを超える巨大な路面ペインティングなど、ときにトリックアートを彷彿とさせる作風が魅力な彼女の新作個展を開催。既存の襖、皿、はがきなどに奥行きを与え、モノとの関係性を探る1点ものの作品を通して目指されるのは、日常に亀裂を入れるかのような新たな異空間の創出だ。鑑賞後は、世界を見る眼差しが刷新されるに違いない。



Photo by DAISUKE OMORI

吉野もも

1988年東京生まれ。2012年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業、2015年東京藝術大学大学院油画専攻修了。近年の主な展示に、2022年 個展「Make It Simple」三越コンテンポラリーギャラリー、2022年「Encounters in Parallel」ANB Tokyo、2018年 個展「being」rin art associationなど。



吉野もも個展「余白の深淵」

会場：2F OIL by 美術手帖

会期：2023年9月15日(金) - 10月9日(月・祝)

入場無料

■ほぼ日曜日 | 「ANREALAGE」が参加。6つの扉を開けて“ほぼ非日常”な服と空間をめぐる体験型の展覧会「6 DOORS」

「ほぼ日曜日」で開催される「6DOORS」は、その名の通り、6つの扉を開けて6種類の“ほぼ非日常”な世界を感じる体験型の展覧会。それぞれの体験は、ファッションブランド「ANREALAGE」のコレクションによって構成されている。「ANREALAGE」は、「A REAL (日常)」「UNREAL (非日常)」「AGE (時代)」を組み合わせた名を冠するファッションブランド。パリコレなど国内外で、今までにない独創的で刺激的なファッション発表し続けてきた。この謎めいた空間にいかなる非日常性をプラスしているのか。その目で確かめよう。



『6DOORS』Tシャツ ¥8,800



▼PARCO ART PASS

「ほぼ日」のリアルスペースで使えるお買い物券「100nuts」(¥100相当) 贈呈

6 DOORS

会場：8F ほぼ日曜日

会期：2023年9月9日(土) - 10月9日(月・祝)

入場料：600円



ANREALAGE

ANREALAGE

2003年、ファッションデザイナーの森永邦彦が設立。独創的なデザインに加え、最新技術を積極的に取り入れることで知られ、パリコレクションで発表を続ける。近年は、アニメーション映画『竜とそばかすの姫』とのコラボレーションや歌手ビヨンセの衣装を手がけ話題となった。

GALLERY LINEUPS ②

■W・アンダーソン監督作『アステロイド・シティ』の衣装と小道具の特別展。劇中に登場する“隕石”が！

ウェス・アンダーソン監督の最新作『アステロイド・シティ』が「WHITE CINE QUINTO」で上映中。会期中「WHITE CINE QUINTO」前では、撮影時実際に使用された衣装と小道具を特別展示。主演ジェイソン・シュワルツマンとティルダ・スウィントンが着用した衣装や本作のキーアイテムである“隕石”の撮影小道具などを間近に見ることができる。さらに、9月23日（土）は、本作に登場する砂漠の街・アステロイド・シティに隕石が落下した記念日“アステロイド・デイ”であることになんで、特別上映企画を実施予定。

▼PARCO ART PASS

一般料金から¥200オフ ※一部作品を除く

『アステロイド・シティ』衣装&小道具 特別展

会場：8F WHITE CINE QUINTO前

会期：2023年9月5日(火) - 9月24日(日)

『アステロイド・シティ』アステロイド・デイ記念 特別上映

2023年9月23日（土・祝）時間未定

※詳細は近日中に作品公式HP・SNSにて発表いたします。



©2023 FOCUS FEATURES, LLC.

■総勢20名を超えるアニメーターたちの作品展「インディーアニメクロスX! in 渋谷PARCO」

人気アニメーターのこむぎこ2000とはなぶしが2023年2月に開催したリアルイベント「インディーアニメクロス！」がパワーアップし、今回渋谷PARCOで開催！会期中は図録やオリジナルグッズの販売を行うほか、普段は聞けない制作のあれこれにまつわる禁断のトークショーも予定。いつもは裏方に徹しているアニメーターの存在を、よりリアルかつ身近に感じられる貴重な機会になっているので、ファンはもちろん、アニメーター志望の方々もぜひ足を運んで。

▼PARCO ART PASS

特製ステッカーを贈呈

インディーアニメクロスX! in 渋谷 PARCO

会場：B1F GALLERY X BY PARCO

会期：2023年9月22日(金) - 10月9日(月・祝)

※9月22日（金）～9月24日（日）、9月29日（金）～10月1日

（日）は要事前予約

入場料：700円（特典「ランダム缶バッジ」付き）

※小学生以下無料



<参加アーティスト>

coalowl / G子 / JINØ(ジノ) / niL / Ocowa / sakiyama / えいりな刃物 / こむぎこ2000 / ゴル / しまぐちニケ / つづつ / はなぶし / はるまきごはん / まご山つく蔵 / ヨウヘイ / りく / Ligton / 革蟬 / 金属8g / 巡宙艦ボンタ / 小津 / 植草航 / 仁保知行 / 津田(tsuda)

■にいみひろきの展覧会「ROCKET PUNCH」ジャンク品をアートに昇華し、消費社会の是非を問う

“クリエイティビティの消費”をテーマに作品を発表する現代アーティスト・にいみひろきによるアート展「ROCKET PUNCH」を開催。捨てられた漫画やデジタル上に放置してあるものを再構成し、グラフィックを制作。「Mid-Century MODERN」で販売できなくなったジャンク品に落とし込み、アート作品として販売する



ROCKET PUNCH

会場：4F Mid-Century MODERN

会期：2023年9月15日(金) - 10月1日(日)

入場無料

GALLERY LINEUPS ③

■“日本画技法×ストリートカルチャー”の融合、新進気鋭の作家・新埜康平の新作個展

新進気鋭の作家・新埜康平氏が「3LFTN apartment」にて個展「Kohei Arano Solo exhibition」を開催。“日本画技法×ストリート”の作品を発表する彼の作品には、基本画材として日本画材の膠や和紙、胡粉等の顔料などを使用。古くからの日本の伝統的な絵画表現であるそれらの素材を用いながら映画やストリートカルチャーという影響を取り入れたモチーフをミックスさせている。本展では、渋谷という街を意識した作品など、新作を中心に10～15点を展示。和紙や顔料の質感を実際に感じてほしい。



新埜康平

東京生まれ。東京を拠点に活動し、展覧会などを中心に参加。ストリートカルチャーや映画の影響を受け、仮名の人物や情景、日々の生活に根差した等身大のイメージをモチーフにした作品や、余白やタギング(文字)の画面構成等、様々な絵画的要素を取り入れ、日本画×ストリートをテーマに制作。



Kohei Arano Solo exhibition

会場：7F 3LFTN apartment

会期：2023年9月6日(水) - 9月18日(月・祝)

12:00-19:00

入場無料

■東アジアに生きる女性や、性的マイノリティの声を次世代に継承するイベント「道をつくる」

東アジアの性的マイノリティ(クィア)をテーマの中心にしつつ、同時に若い世代と上の世代を繋ぐことに重点を置く2日間のイベント「道をつくる」が今年も開催。今回は、ソウルに実在した古いハッテン映画館を通して、70年代から80年代にかけての韓国のクィア・カルチャーの黎明期を鮮やかに描き出すドキュメンタリー映画『楽園』の日本初上映や、日本や台湾でコミュニティとともに活動を続けてきた方々をゲストに迎え若い世代と対話をする。



映画「楽園」(監督:ホン・ミンギ) © Minki Hong

▼PARCO ART PASS

チケット100円OFF ※当日券現金のみ

道をつくる 2023 東アジアのクィアたち、つながるジェネレーションズ

会場：9F GAKU

会期：2023年9月23日(土) - 9月24日(日)

入場料：ユース：¥1,000～¥1,500、一般：¥2,500～¥3,500

※チケットの「ユース」は22歳くらいまでが対象ですがID確認は致しません。「一般」はどなたでも購入可能です。料金はスケール式。



映画「赤いスカート」(2018年|中国)

POP UP ①

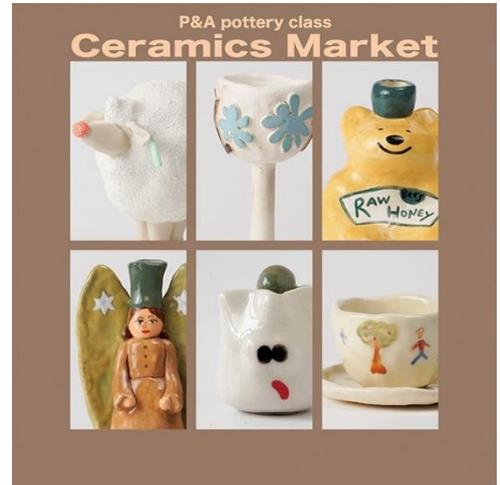
■知る人ぞ知る陶芸教室「P&A pottery class」に通うクリエイターたちの陶器展示販売会

「P&A pottery class」は、数多くのイラストレーターやアーティストが足繁く通う陶芸教室。4F「SKWAT419202122」では、「P&A」で制作を行うクリエイター11名に、陶器ブランド「P&A ceramic ware」を加えた合計12名の陶器作品の展示販売会「CERAMICS MARKET」を開催。また、陶芸教室でリサイクルした粘土を使用した陶器「collect」シリーズの展示販売を行う他、今回のPOP UPで初お披露目となるP&Aオリジナルグッズや、染太郎×P&Aオリジナルてぬぐいも販売予定。9月23日（土・祝）・24日（日）には、作品も出展するHONGAMA、MIDORI NAKAJIMA、Quentin Chambryの3名が描き下ろした、イラストの転写シールを食器に貼り付けるワークショップも開催。

P&A pottery class

会場：4F SKWAT

会期：2023年9月1日(金) - 10月1日(日)



■林 靖高がデザイン、箸袋Tシャツにフォーカスしたフェア。キーホルダーとのスペシャルセットも

アーティスト・コレクティブ Chim ↑ Pom from Smappa!Groupのショッププロジェクト「金三昧・KANE-ZANMAI」で人気高い「箸袋Tシャツ」。メンバーの林 靖高氏がデザインし、文字通り胸元に箸袋を模した刺繍には「WHAT THE HECK IS ART? IS IT TASTY? (アート? 何それ美味しいの?)」、「serve me more art (芸術おかわり)」といった刺激的なメッセージが入り、なおかつ実際の割り箸まで付いている。そんなオリジナリティ溢れるユニークなTシャツにフォーカスした「箸袋Tシャツフェア」を開催。会期中は、爪楊枝袋キーホルダーとのスペシャルセットもリリース。普通のファッションアイテムでは飽き足りない人にもオススメだ。



林 靖高 (Chim ↑ Pom from Smappa!Group)

2005年に東京で結成された6人組アーティストコレクティブ、Chim ↑ Pom from Smappa!Groupのメンバー。同コレクティブでは、現代社会を取り巻く問題をテーマにした作品、プロジェクトを発表する傍ら、同時代を生きる他のアーティストたちや様々なジャンルの展覧会やイベントの企画など、キュレーションも積極的にを行い、アーティストの在り方だけでなく「周縁」の状況を変容、拡大させている。現在、歌舞伎町の王城ビルにて大型展覧会「ナラッキー」開催中!

Japanese internet slang series箸袋 T シャツフェア

会場：4F 金三昧

会期：2023年9月15日(金) - 9月24日(日)



photo Raki Shibusawa

■独自の手法によって生み出された動物たちが勢ぞろい、NEONTOYSの新作個展「SLIT ANIMALS」

3Dプリンターなどを使い、様々なアプローチでオリジナルトイ・グッズからアート作品までを制作するトイブランド「NEONTOYS」の個展「SLIT ANIMALS」。タイトルに含まれる「SLIT」とは、近年「NEONTOYS」が取り組む、模様で形を作る独自手法のこと。この手法によって生み出された動物モチーフの作品が集まる新作展示だ。大小様々なフィギュア作品やキーホルダーは、トイならではのポップな印象と同時に「SLIT」がもたらす複雑な表情をも併せ持つ。ぜひこの不思議な佇まいの作品をゲットしてもらいたい。

NEONTOYS SOLO EXHIBITION "SLIT ANIMALS"

会場：4F

会期：2023年9月15日(金) - 9月24日(日)



POP UP ②

■ますだみく | センチメンタルな恋愛をエモく切り取る、個展「ドラマチックな恋じゃないけれど」

恋人たちの日常的なワンシーンをエモく切り取った作品で注目を集める、イラストレーター・漫画家のますだみく。彼女の真骨頂とも言える、センチメンタルな恋愛をテーマとした絵と言葉をめぐる作品が、本展のために描き下ろされた新作を含めて一堂に会する。さらには、過去に制作をした恋愛ソングのMVやドラマのエンディングカットから選抜されたワンシーンがパネルで登場。きっと胸に刺さるシチュエーションの作品と巡り会えるに違いない。



■ますだみく 個展「ドラマチックな恋じゃないけれど」

会場：4F

会期：2023年9月15日(金) - 9月25日(月)

入場無料

■ヴィンセント・ギャロとのコラボレーション第2弾。哲学とセンスが詰まった1着を

「カワイイ」を追求し世界に発信する「Little Sunny Bite」が、このたび映画監督兼ミュージシャンであるヴィンセント・ギャロとのコラボ第2弾シリーズをリリースする。監督の哲学とセンスが詰まった作品に熱狂的ファンが多いことで知られるが、『buffallo66』の世界観をファッションに込めた第1弾に続き、今回は代表作『brown bunny』の映画のワンシーンを切り取ったラインナップが並ぶ。初のオフィシャルコラボレーションとしてそれぞれの世界観に共鳴して叶った試みらしく、すべてのアイテムにプリントされたヴィンセント直筆のサインにも注目だ。



■Little Sunny Bite

会場：1F POP UP SPACE

会期：2023年9月15日(金) - 9月24日(日)

Special EVENT ①

■Podcast『聞く CINRA』公開収録にラッパー・TaiTanが出演

カルチャーメディア・CINRAのPodcast番組『聞く CINRA』が、ART WEEKとコラボレーション。「カルチャーとソーシャルの交差点に立つ」をコンセプトに掲げ、批評家やアーティストらと共に、文化への多様な解釈や社会への希望をじっくり語り合う本番組。今回、会期初日の9月15日(金)に渋谷 PARCOにてゲストにTaiTanを迎え出張公開収録した2本を9月22日(金)に配信予定。



■TaiTan

Dos Monosのラッパー。これまで3枚のアルバムリリースに加え、台湾のIT大臣オードリー・タンや、小説家の筒井康隆とのコラボ曲を制作するなど、領域を横断した活動が特徴。クリエイティブディレクターとしても¥0の雑誌『magazine ii』やテレ東停波帯ジャック番組『蓋』などを手がけ、2022年にvolvoxを創業。Spotify独占配信中のPodcast『奇奇怪怪』やTBSラジオ『脳盗』ではパーソナリティもつとめる。



■Podcast『聞く CINRA』meets PARCO ART WEEK

会場：4F エスカレータ横

日時：2023年9月15日(金) 19:00開始

Special EVENT ②

10F ComMunEではクリエイターによる映画フェスや、東京・谷中のうつわ店による陶器市、パンを中心に生活の彩りをキュレーションする人気イベントをラインナップ。

■MOVIE GO ROUND



Photo 三木匡弘

俳優・映画監督 須藤蓮氏がキュレーターとなり、1日限定で映画フェスを開催。「旅する喫茶」によるオリジナルカレー、クリームソーダなどの限定フードの販売や、サントラブラザースによる映画音楽でのDJ&夜にはOTAをDJに迎えてタイムスリップダンスパーティーと一日楽しめる映画フェスティバルとなっている。9月15日（金）公開、渡辺あや氏共同脚本による須藤監督第二作『ABYSS アビス』と連動し、8F WHITE CINE QUINTOでは舞台挨拶も行われる。

(Sponsored by AUGER)

日時：2023年9月15日（金）
11：00-23：00

■FORGOOD



クリエイターがそれぞれの専門分野で、世の中が抱える様々な課題について楽しく一緒に考えるイベント「FORGOOD」。第1回はファッション好きのクリエイターが集い、リサイクルや余剰品を出品するフリーマーケットを開催。収益の一部は、音楽×気候変動をテーマにアクションを促す「Climate Live Japan」の協力のもと、地球温暖化防止に取り組むNPOに寄付される。xiangyuと眞名子新によるライブパフォーマンス、おもちゃをアップサイクルした「Toy and Art」のワークショップ、Tシャツをバッグにリメイクするブースなども同時開催される。

日時：2023年9月18日（月）
11:00-19:00
入場料：1000円（ワンドリンク付き）

■PARCOでkokonnと益子もえぎの小さな秋の陶器市



東京谷中のうつわ店「kokonn」と益子の陶磁器ギャラリー「益子もえぎ」共催による大人気イベントを渋谷PARCO屋上にて開催。益子焼を中心に全国30以上の人気作家・窯元が一堂に会し、東京の真ん中で陶器市気分が味わえる楽しいイベント。ART WEEKに合わせ、「kokonn」セレクトのアートな器を集めた「ART OR UTSUWA?」コーナーなど特別企画も予定している。

日時：2023年9月16日（土）17日（日）
11：00-18：00

■PARCO PRESENTS 「パンタスティック！！」 JAPAPAPAPAPANTOUR



2015年に広島PARCOでスタートした、パンを中心に、パンにまつわるグロッサリー、フード、雑貨など生活を彩る提案をするイベント「パンタスティック！！」。渋谷PARCOを皮切りに全国6か所で、初となる巡回ツアーが開催決定！今回はBOBartworkによるライブドローイングや、手書き結社WHWによる看板屋&1分間タイムアタック似顔絵など、今までにない取り組み実施やコンテンツをお届け。

日時：2023年9月22日（金）-24日（日）
11:00-21：00 ※最終日は18時まで